

中外雑記

神社界

重文の土塀も崩壊

●「震度6くらいとは到底思えない、恐ろしい揺れだった」と恐怖の体験を語るのは、西宮神社（兵庫県西宮市・吉井良隆宮司）の吉井貞俊権宮司。兵庫県南部地震で国の重文の土塀「大練塀」が崩れるなど＝写真【写真は省略】、境内は大変な被害に見舞われた。社務所は無事だったが、中は手が着けられないほど混乱を極めており、復旧のメドも立たない状況。西宮市は報道される以上に大きな被害を出しており、事態は極めて深刻（記事面参照）
▽赤穂市の大石神社では、本殿の宝物が一部倒れることがあったが、兵庫の西部とあって大きな被害はなくて済んだ。また、飯尾精宮司に姫路少年刑務所教誨師として活躍した功績に対して昨秋藍綬褒章が贈られたことの祝賀会が、赤穂市長らの発起により二十六日に予定されていたが、これは大幅延期されることになった
▽大阪府神道青年会（下垣太会長・等乃伎神社禰宜）が二十七日に予定していた「国旗掲揚宣揚パレード」も、地震災害を慮って今年は中止となった。

黒住

義援金二千万円を拠出

●同教団は神戸市内に五教会、淡路島に七教会をもつ。今回の兵庫県南部地震ではいずれも傾いたり壁が崩れたりしたが、全壊は免れ、現在のところ、教師や信徒に犠牲者も出ていないもよう。地震の起きた十七日には、淡路島に本部職員二人が見舞いに出向き、十八日、十九日にはワゴン車三台で救援物資を運び、信徒に限らず避難民全員へと避難場所に届けた。同教団では今後も救援物資の輸送を続ける他、二千万円の義援金の拠出も決めている。また、全国の信徒に対して義援金の呼び掛けも行なう。

金光

被災地区に約六十の協会

●教団本部では、兵庫県南部地震の起きた十七日の朝から、現地と連絡をとって被災状況の把握に努めるとともに、対応策を協議。翌十八日には確かな情報を得るため現地に本部職員を派遣した。神戸を挟んで西側の城南教会（姫路）に九人、東側の尼崎教会に三人、淡路島には二人を派遣。現地の西近畿教務所職員や被災を逃れた教会関係者、信徒たちと協力して、全ての教会を歩いて被災状況を調べているとのこと（十九日正午現在）
▽同教団の教会は、神戸市内に三十六、淡路島に七、西宮市に六、尼崎市に七、伊丹市に二、宝塚市に三、芦屋市に二、川西市に二教会など。神戸市灘区には西近畿教務所も置かれている。同教団では、正確な状況が分かるまで詳しい被害状況と教会名の公表は控えるとしているが、教会の全、半壊、信徒の死亡等かなりの被害が出ているもよう。今後は義援金を呼び掛けて、教団の内外に対する救援を積極的に行っていく。

臨黄

被災情報、続々と

●**臨黄各派** 平成七年兵庫県南部地震の被害規模の全貌が徐々に明らかになりつつある。十九日朝現在で既に死者は三千人を超え、家屋の損壊も二万を上回る。懸念されている余震の追い打ちがあれば、建造物の被害はさらに大きくなるかもしれない。現地の惨状は想像以上。地震のすさまじい破壊力を実感させる倒壊したビル、飴のように曲がった高架の線路などもさることながら、改めてこの震災の重大さを実感させるのは、瓦礫の散らばる街に溢れるおびただしい被災者の姿だ

▽寺院関係の被害はどの程度なのか？ 交通網、電話線も寸断された状況で、地震後三日経っても火災の余燼が収まらず、建造物の倒壊被害も最も大きかった神戸市内の実情はまだ充分掴めない。救援活動や支援物資搬入のため交通規制がされていて、車両によって被災地に入るのは難しいものの、十八日には私鉄が西宮まで復旧。そこから徒歩で西宮市や芦屋市の被災寺院を訪れることができ、西へ行くほど酷さを加える被災状況を確認した

▽西宮市内では三百人以上の死者が出たが、建造物の被害も局地的に極めて甚大。特に重い屋根瓦を背負った木造建築寺院の被災率は高いように思われた

▽自衛隊の救援部隊の姿が目立つ西宮市役所前にある妙心寺派海清寺も鉄筋コンクリートの楠会館や禅堂などは健在であるものの、修理中だった開山堂や鐘楼は倒壊、庫裡もほとんど崩れかけ＝写真【写真は省略】、赤門は傾き辛うじて補助材で倒壊の危険を防いでいる、という状況。地震があった当時、僧堂は接心のさなか。春見文勝前管長は隠寮にいて、雲衲は粥座のあと禅堂で坐禅中で幸いなことに全員無事だった。しかし海清寺から一キロ余を隔てるばかりの浄土真宗本願寺派西福寺では豊原大潤元宗務総長ら三人が崩れた庫裡の下敷きになって亡くなっており、海清寺も伽藍の被害をみると全員無事だったのはきわめて幸運だったといえる

▽春見前管長は普段と全く変わらず豪放磊落。隠寮にどっかりと腰を下ろして、「こういうことがあるのも人生。儂はやはりここが一番いい」と語っていた。相見中、軽い余震があったが「こんなもの」と余裕の表情。「ただ、これから建てるならコンクリートだな、丈夫だから。庫裡も鉄筋コンクリートで建て替えるよ」とも。地震の混乱の中で、さすがに揺るがない平常心を漂わせた

▽同じく西市役所に近い東福寺派茂松寺は本堂が完全に潰れていた。地震当時、宇野正弘住職は朝課を終え本堂を出たところ。あやうく難を逃れ、傾いて危険な庫裡から寺宝の「虎関国師頂相」や檀徒名簿などを搬出した。幸い鉄筋コンクリート建ての会館、位牌堂は無事。宇野住職は境内に駐車した自家用車に避難していたが、「位牌堂を仮本堂にして、一段落ちつけば早速再建に取りかかる。雨よけのシートも早速百枚注文しましたよ」と語っていた

▽なお、西宮市仏教会長を務めている宇野住職は震災被害者の遺体安置所になっている地元の小学校を訪問、申し入れて枕経を読経した。「遺族から感謝され、涙がでました」という

▽以下の臨済関係被災寺院の消息は十九日現在で本紙に寄せられた間接情報（十九日付雑記欄参照）

▽妙心寺派＝祥福寺（神戸市兵庫区）で山門が倒壊、本堂にも亀裂が入った。十九日午前、海清寺、祥福寺など被災地の各末寺を訪ねるべく、宗務本所から職員四人が現地に急行した。南禅寺派＝広厳寺（神戸市中央区、千葉猷道住職）は伽藍が全壊という目撃情報が入った。花園大学関係者によれば、後援会会長中野多聞氏の自坊福海寺

（神戸市兵庫区）は伽藍に大被害を被った。十八日夜には鈴木正澄法務部長、堀口宗信信徒部長及び南禅僧堂雲衲二人が車で神戸市内に入ったが、その中間報告によると海泉寺（長田区、染川真澄住職）は本堂が全壊。福聚寺（同、足立芳伸住職）、明泉寺（同、富示莊碩住職）も本堂が使用不可能な状態。妙楽寺（同、栴井洋尚住職）は無事だったという

▽各宗派は早速、地震被害者救援の動きを見せているが、花園大学では宗教部、仏教学生会が学内で地震罹災学友救援のカンパを実施している。十九日から三十一日までの後期試験期間中（地震被災者対策で試験開始は二日延期された）、昼休みに募金活動を行なっているもの。ちなみに、同大学仏教学生会はカンボジア難民支援や雲仙普賢岳災害でボランティア活動を実施してきた実績がある

▽記事面の震災特集も参照。

天台

即座に対応して災害地慰問

●**天台宗** 十七日早朝の兵庫県南部地震救済のため、宗務庁では即日「天台宗兵庫県南部地震対策本部」(本部長＝杉谷義純宗務総長、副本部長＝小林隆彰延暦寺執行)を設けた。対策本部では神戸市を中心とする被災地救援調査団を派遣し、被害の把握に努めた。その対応は早く、地震発生の午後には、宗務庁の山田能裕社会部長と延暦寺の真嶋康祐副執行の二人が現地に急行し、調査、慰問に努めている。交通機関がマヒし、混乱しているため、混乱を避けて国道9号線を経て迂回するルートで、兵庫県加西市にある上中善信兵庫宗務所長の自坊・普光寺にたどり着き、十七日夜同寺に一泊し、十八日朝から被災地に入った。上中宗務所長も早い到着に驚いていたようだ。兵庫教区には百六十九カ寺があり、神戸を中心にした最も被害の多い地区にも四十一カ寺があり、大変な被害を受けている。二人は、加西市から加古川に入り、震災地西部の明石市から神戸市の西区、垂水区、兵庫区の関係寺院を慰問した。加西市の羅漢寺(岸原祐驤、北条町)、法華山一乗寺(太田實秀、坂本町)、加古川市では、鶴林寺(吉田亨盛住職、加古川町)、明石市の高家寺(井藤圭端住職、太寺)、実相院(小泉即澄住職、大観町)、戒光院(藤井亮俊住職、大観町)など、また、神戸市内では西区の清水寺(小泉即澄住職、玉津町)、垂水区の実相寺(齊川文泰住職、多聞台)、多聞寺(齊川観弘住職、多聞台)、兵庫区の能福寺(雲井世雄住職、逆瀬川町)、灘区の善光寺(高坂盛暢、会下山町)などを巡回した。被害が最も強い激震の地区には充分立ち入ることができなかったが、訪れることのできた寺の住職、寺族については幸い人的被害はみられなかったようだ。しかし、各寺とも建物の損傷は激しいようだ。二人は夕刻に現地を出て、十九日早暁三時にやっと帰山した。二人の報告を受け、同日対策室初の会議を開き、続いての救援は、交通事情も考慮し、教区の仏青に協力を要請して調査を進めることになった。今後も随時救援に出かける態勢で対応している。また、延暦寺では、十八日の朝、犠牲者の慰霊法要を山上阿弥陀堂で梅山圓了座主導師により、奉修した。災害地救援を呼びかける座主諭示を発し、教団各機関、諸団体挙げて救援募金を呼びかけている。諭示は以下のとおり。「平成七年一月十七日発生した、兵庫県南部地震により被災された宗徒はじめ多くの方々に、心より御見舞申し上げます。尊い命を失われた方々のご冥福を祈ると同様に、一日も早い復興を願います。平成七年一月十八日天台座主大僧正梅山圓了」。また、被災した宗徒、檀信徒を初め多くの支援を呼びかけて、一隅を照らす運動地球救援募金として「兵庫県南部地震救援金」を募集している。一口一円で何口でも受け付けている。振替用紙で、「天台宗兵庫県南部地震対策本部(天台宗務庁内)」へ▽京都市内各門跡寺院では、妙法院門跡(大久保良順門主)の三十三間堂の重文の千体観音像の六体が倒れたほか、百体近くに損傷があるもよう。また国宝の本坊の庫裡の壁が損傷したほか、毘沙門堂門跡(萱田玄昭門主)でも塀の壁が少し損傷しているようだ。その他三千院、曼殊院、青蓮院などは被害もなく済んだようだ。

広島

緊急見舞金まず三百万円

●**本願寺派** 安芸教区(高橋廣爾教務所長)では、この度の「兵庫県南部地震」に際し、緊急の見舞金五百万円を送ることを決定した。引き続き、教区の災害対策委員会(委員長・星月量之教区会議長)を招集し、支援について協議する他、各教化団体にも協力を呼びかけていくことにしている。

実業

震災に負けず生産稼働へ

●**兵庫県線香協同組合** 神戸市を中心に十七日早朝に発生した「平成七年兵庫県南部地震」は、震源地に近い淡路島に大きな地震のツメ跡を残した。線香生産日本一を誇る同組合（福永稔理事長）が事務所を構える津名郡一宮町でも、死者十人を出す大きな被害に見舞われ、島民の崇敬を集める伊弉諾神宮の鳥居や石灯籠が倒壊したのを初め、町内の半数の家屋が全壊を含む何らかの被害を受けた。同組合によると、加盟する薫物専門店十八社でもその被害は甚大。同町郡家に本社を構え、福永理事長が経営する(株)薫寿堂では、家屋の倒壊により社員二人が死亡。この他、出荷を待つばかりとなっていた商品に相当な損害が出たものとみられている。同町は、推古三年（五九五）淡路島に香木が流れついたことが『日本書紀』の記述で知られ、日本の線香の発祥地とつたえられている。その後、江戸時代に入り、同町で線香の製造が始められると、瞬く間に全国へ普及。今日では、生産高約五千トン、売り上げ約百七十億円を誇り、全国のシェアの七割を占め、同町最大の基幹産業として町民約二千人が線香産業に従事している。同町では、近年「香りの町」として香りの発信地を宣言。町内には、香草百種、香木三十七種を集めた香りをテーマとしたユニークな「淡路香りの公園」や様々な香りを体験し、触れ合うことのできる淡路香りの館「パルシェ」が建設され、積極的に産業育成と広報活動に取り組んでいる。社員二人を今回の地震で失った福永理事長は、企業経営者であると同時に、組合の代表者。十八日午後二時三十分から営まれた同町合同葬に複雑な想いで参列。心から冥福を祈っていた。同理事長は「全国各地から心温まる声を頂戴し、大変励まされました。私共組合では、全国の線香の七割を製造しております。淡路が元気を出さなければ、全国へ大変ご迷惑をおかけすることになります。各組合加盟店でも、今回の地震で多大な被害が出ましたが、一日でも早い復帰を目指して頑張りたいと考えております」と意欲的に話していた。

真宗

寺族も多数が犠牲に

●**本願寺派** 兵庫県南部地震は神戸、西宮、宝塚、伊丹の各市や淡路島の兵庫県南部の本派寺院に甚大な人的、物的な被害をもたらした。十七日に設置された臨時本部委員会（委員長＝松村了昌総長）が十九日午前十一時までに纏めた被害状況によれば約百カ寺の寺院に被害が出ている。このうち広範囲で火災が起こった神戸市長田区をエリアとする神戸西組（組長＝中村信之浄行寺住職、二十九カ寺）では十七カ寺の寺院が本堂、庫裡が全焼するなど大きな被害を受け本誓寺（藤猪英生住職）の前坊守が亡くなっている。今回の地震による人的被害は、十九日午前十一時現在の本部委員会調べで七人の寺族が死亡、また、門信徒の被害も相当の数にのぼっているもようである。亡くなった七人の寺族は、豊原大成総務の自坊、阪神西組西福寺（西宮市）で大潤元総長、幸子坊守、長女の真理さんの三人が倒壊した庫裡の下敷きになり死亡。神戸東組の妙善寺（上田泰朗住職、神戸市灘区）でも本堂、庫裡などが全壊して寺族一人が死亡。神戸湊組の光明寺（山西宏昭住職、神戸市兵庫区）でも本堂、庫裡が全壊して小児一人を含む二人の寺族が死亡している。このうち最も人的被害が多かった西福寺の豊原総務は寺族の全員を一瞬にして失うという不幸に見舞われたが「ご門徒も少なくとも三十人は亡くなっておられる」と門信徒への被害がどの程度のものになるのかを心配していた。十八日、同寺を見舞った松村総長はあまりの惨さに「言葉ありません」と絶句していた。

菅原宗議地震に遭遇

●**大谷派** 兵庫県南部地震に遭遇し、「九死に一生」を得た菅原宗議（聖安寺住職、富山県高岡市）。神戸の中心地、三宮のホテルで被災し、死者を最も多く出した神戸市東灘区で恐怖の二日間を過ごした▽菅原宗議は親戚の浄土真宗本願寺派西方寺の前住職七回忌に出仕するため、十六日夕方、実母の満寿子さんと神戸入りした。三宮のホテルに満寿子さんと宿泊し、雑誌を読んでいたところに地震が直撃した。まず、ドーンという物音とともにベッドが沈み、激しい縦揺れと横揺れに見舞われた。備え付けのテレビやテーブルが倒れて菅原宗

議は足に怪我し、窓から外を見ると目の前のビルが倒壊したり、「ピサの斜塔」のように傾いていたそう。約一時間後、頭上から時折落ちてくるタイルやガラスなどを避けて、実母とともに歩いて近隣の小学校へ避難。サウナからバスタオル一枚で飛び出してくる泊まり客や倒壊した生田神社、火の手が上がる繁華街を横目に見ながら目的地に向かったという

▽地震初日は西方寺へ泊まった。同寺も山門、土塀が倒壊、かろうじて残った本堂には門徒、市民の遺体十数体が運び込まれていた。全身を毛布にくるんだ遺体の前で菅原宗議は間衣を親戚に借りて棺もないまま、枕勤めを営んだそう。そして、お土産に持ってきた富山の鱒寿司を食べながら不安な一夜をおくったという。翌日、午前中、ガスタンク爆発の恐れがあるとの警報から再び、中学校のグラウンドへ避難。そして、満寿子さんの手を引きながら徒歩と車を乗り継ぎ、半日かけて京都へ戻った

▽地震というパニック状態で菅原宗議は多くの見ず知らずの人たちに助けられたそう。西方寺へは営業車に乗せてもらったほか、京都に向かう帰路では親切な外国人の車に大阪まで便乗させてもらったという。「改めて水や電気の有り難さを痛感し、助け合う人たちの心に感動した。現場はまさに“地獄絵”の様相。一日も早い復旧を念じている」と語っていた

▽十九日、本山両堂、参拝接待所、同朋会館、大谷祖廟事務所に義援金箱が設置された＝写真【写真は省略】。各教区でも同様の対応が進められる見通し

▽地震の発生地、淡路島で宗門唯一の寺、浄泉寺（望月広三住職、兵庫県洲本市）では瓦が落ちたものの、建造物は残ったそう。

真言

兵庫支所と淡路支所は今

●**高野山** 今回の地震で一番被害の大きかったのは、兵庫宗務支所と淡路宗務支所の管内。兵庫支所のある円満寺（篠原法傳住職、兵庫県西宮市社家町）には何とかたどり着くことができた。同寺自体も西宮にあるため甚大な被害を蒙り、“西宮成田山”の本堂と納骨堂、そして古い方の庫裏が全壊した。とくにその庫裏には当時、秀典副住職が夫人と子供の三人で二階に寝ていた。「ごう音とともに起きた。何が何かわからずとにかく娘を守り、懐中電灯で照らすと屋根がすぐ頭の上まで迫っていた。下敷きになったが、私らの両脇にあったタンスが屋根を支える格好になりわずまの隙間ができていて助かった。這い出して見ると一階部分は完全に押しつぶされていたので、二階に居たことが幸いした」と不精髭をのばしたままの秀典副住職が恐怖の体験を振り返る。本堂も全壊したが、本尊・不動明王が後ろの壁を突き破って無傷のまま立っていたそうで、「今回助かったのは本当に仏様のおかげだった」と改めて感謝したという

▽同寺の檀家の中ですでに十数人の死亡が確認されており、現在は枕経に追われている。西宮市内の寺院はどこも同じ状態で、各寺院で十人前後の単位で檀家の死亡を確認している。神戸市内ではもっとこの数が増えるようだ。本山としては四班に分けて視察および見舞いのための人たちを派遣しており、何人かが円満寺にも立ち寄った様子
▽淡路支所はとくに震源地に近かった北淡町と一宮町の被害が甚大だったようで、生福寺（北淡町富島石田）や神泉寺（一宮町山田）が全壊した他、長泉寺（一宮町尾崎）なども大きな被害を受けた。また一宮町と北淡町の各寺院では一様に、倒壊しなくても鐘楼が倒れたり、屋根瓦が飛んだり、傾いたり、ひびが入ったりしている。岩坪真弘教学部長は自坊の八浄寺（津名郡佐野）に帰り、被害の少ないことを確認、他の地域を回っている。

友好真言寺院に援助の手を

●**智山派** 十七日の兵庫県南部地震に伴い、総本山を中心に募金を呼びかけているが、援助に全力を傾けているとは言い難い。宗派寺院は神戸市近郊にはないとはいえ、友好真言各派寺院は多く、その対応には消極的に見える。各

宗派では、援助金だけでなく物資や人手なども動員しているのに対し、疑問が残る。

(c) 1995中外日報社(デジタル化：神戸大学附属図書館)